

## 4 - 17 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測 (その8)

### Crustal Movement Observation in the Fuji River and Suruga Bay Area (Part-8)

東京大学地震研究所・富士川地殻変動観測所

地殻変動移動班

Fujigawa Crustal Movement Observatory, and, Crustal Movements  
Survey Party, Earthquake Research Institute, University of Tokyo

#### 1. 地殻変動観測結果

第1図に、1980年1月から1981年10月までの伸縮計・水管傾斜計の打点記録における毎日0時の読取值変化を示す。

EXTにおいては、EXT - 1, 2は1980年、1981年共に特に目立った変化はないが、EXT - 3については、1981年3月27日より6月中旬までの間に $3 \times 10^{-6}$ 程の縮みを示している。しかし6月中旬より現在に至るまでは戻る傾向にある。この縮みについて思い当たることは、1981年3月16日に検出部が故障のため部品を交換したことである。しかし検出部を交換し感度の検定を行っている、又石英ガラスの割れ等も見当たらないので、真の原因はわからない。以前1973年10月より1974年1月までの間に $2 \times 10^{-6}$ 程の伸びを示しその後日周変化の振巾が大きくなったという経験はあるが<sup>1)</sup>、今回EXT - 3においてはその傾向は見られない。いずれにせよ、今後のデータの蓄積を待ちたい。

水管傾斜計については特に目立った変動は見られない。

第2図は、水管傾斜計の月平均値の12ヶ月移動平均を求め、ベクトル表示したものである。ほぼ南への傾動の上に東北東-西南西のゆらぎが乗っており、この方向は観測坑の掘削方向である。

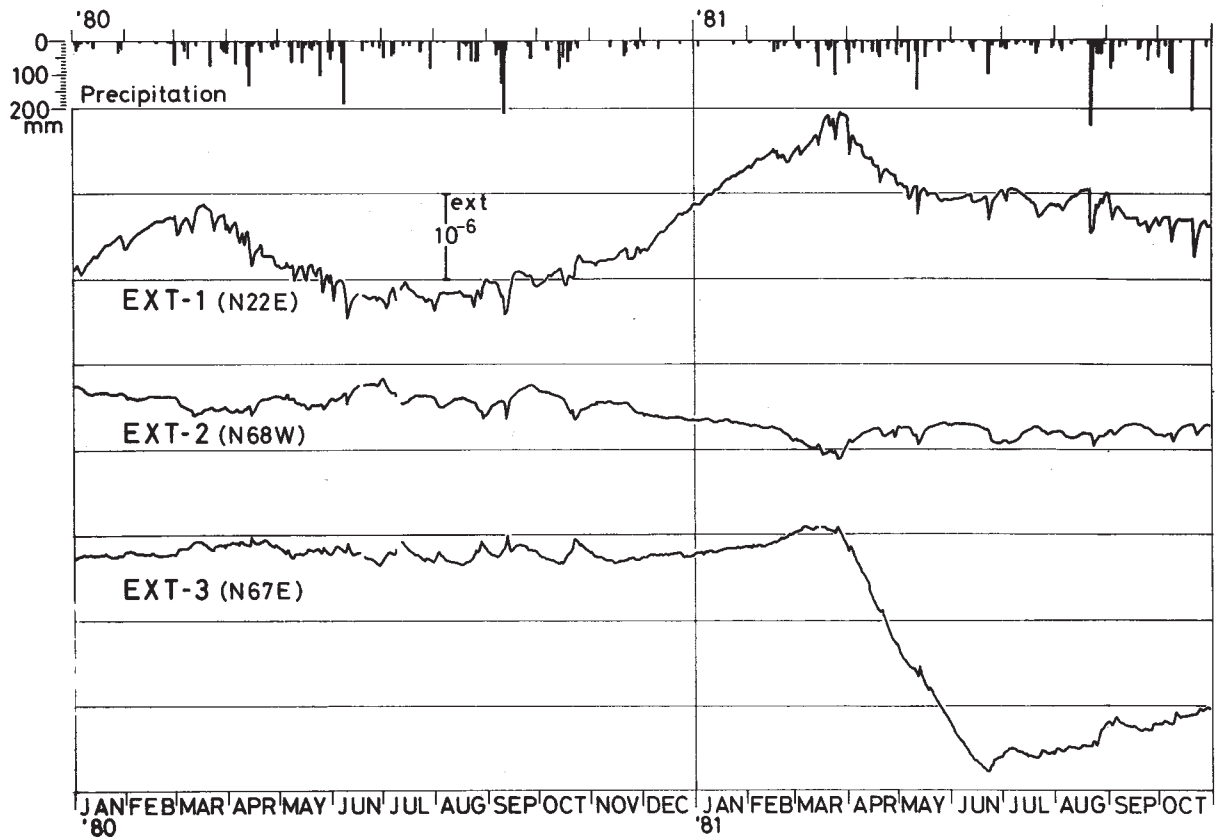
#### 2. 微小地震観測

1978年6月より三点観測を行って来たが、地震観測ネット南の方向の地震活動が高いようなので<sup>2)3)</sup>、1981年2月より元沢(MOT)、堅敷(YSK)の二点を新設した、観測点を第3図に示す、震源は次回報告したい。

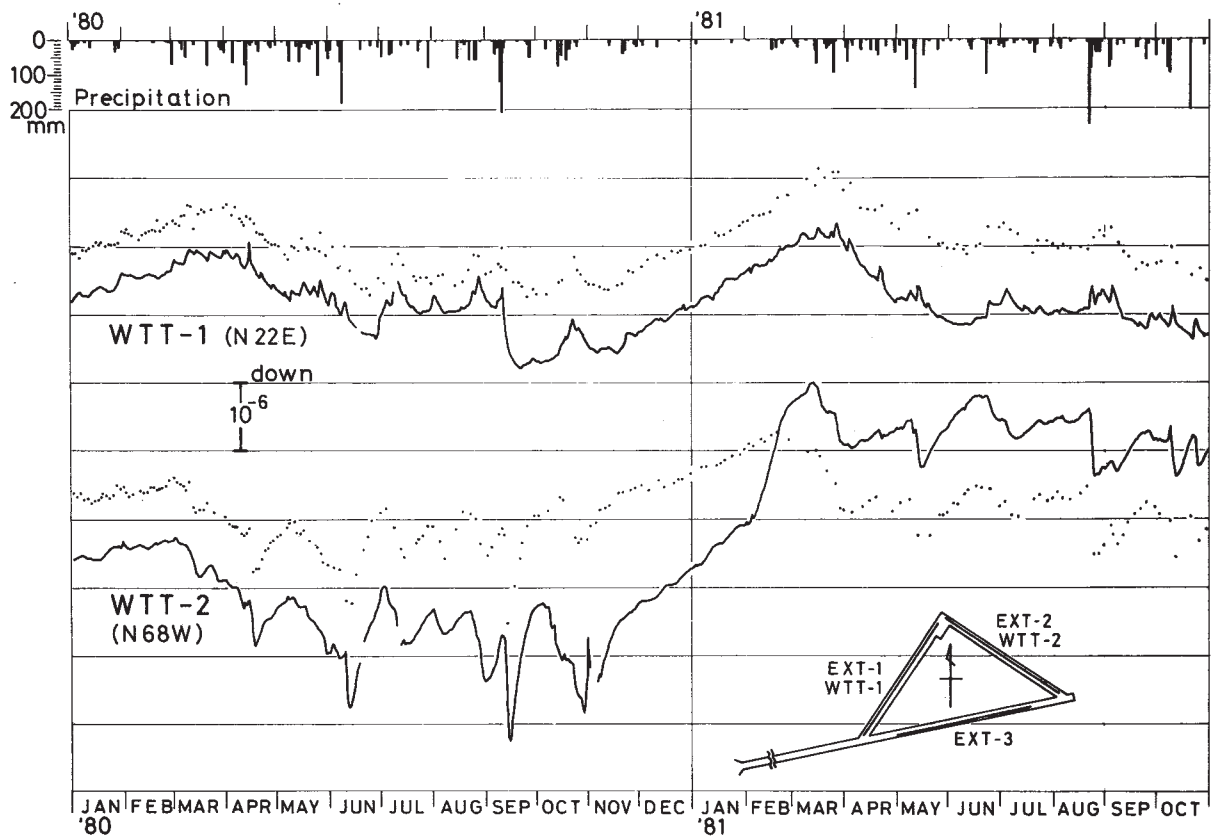
#### 参 考 文 献

- 1) 岡田義光・渡辺 茂：富士川観測所における地殻変動連続観測(3)，測地学会誌，第26巻，第4号

- 2) 東京大学地震研究所富士川地殻変動観測所, 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測 (その5), 連絡会報, **22**(1979), 144-148.
- 3) 東京大学地震研究所富士川地殻変動観測所, 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測 (その6), 連絡会報, **24**(1980), 142-146.
- 4) 東京大学地震研究所富士川地殻変動観測所, 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測 (その7), 連絡会報, **26**(1981), 207-211.



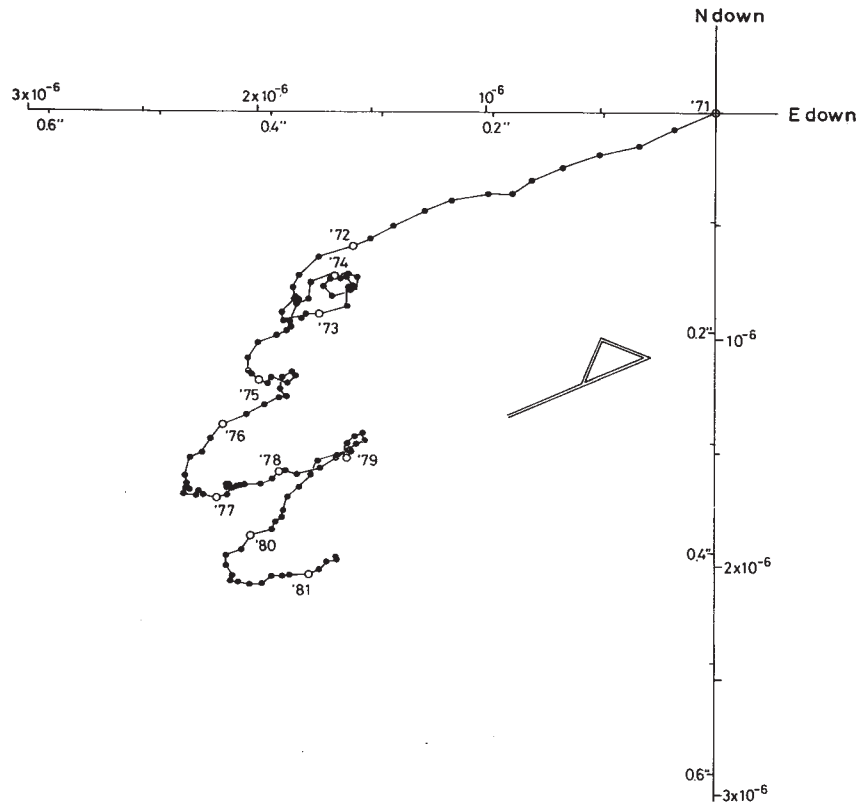
(a)



(b)

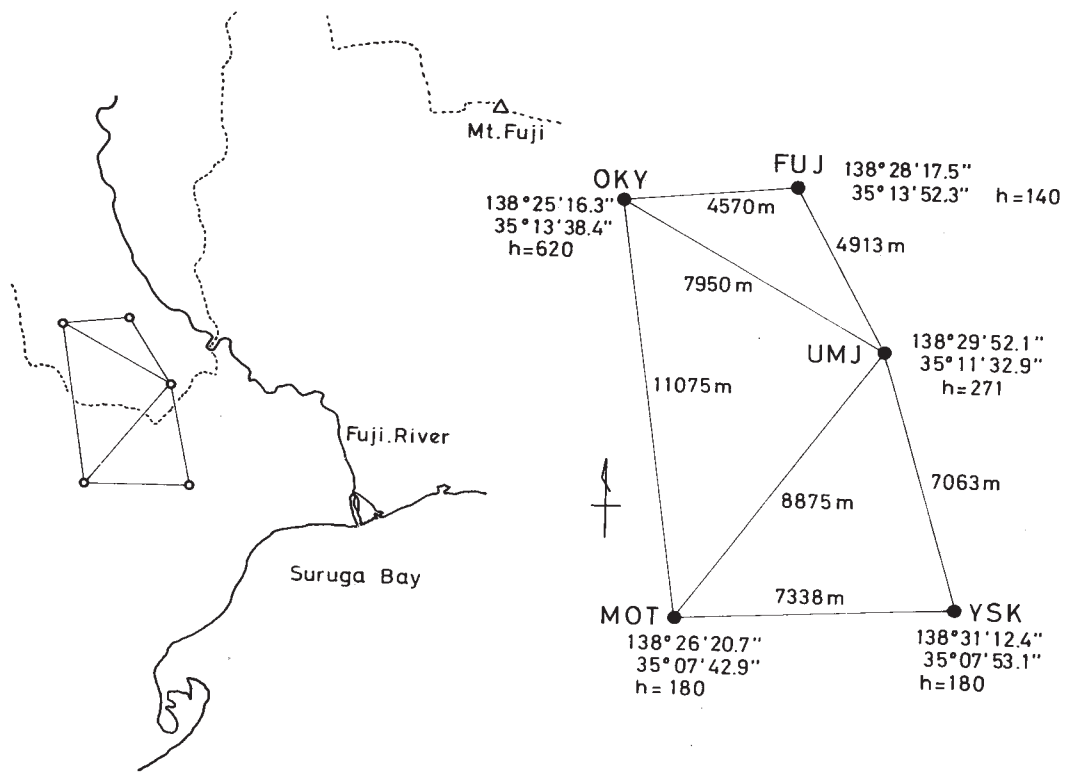
第1図 富士川観測所における伸縮計(a)および水管傾斜計(b) (実線-フロート式, 点-読取式)の観測結果(1980年1月~1981年10月)

Fig. 1 The earth's strain (a) and tilt (b) (solid lines-float type WTT, dots-reading type WTT) at the Fujigawa Observatory. Momentary values at 00 h and readings of WTT are plotted.



第2図 水管傾斜計の12ヶ月移動平均によるベクトル傾動図

Fig. 2 Vector presentation of the cumulative tilt (after monthly running mean) at the Fujigawa Observatory.



第3図 観測点増設後の微小地震観測ネット

Fig. 3 Tripartite network for microearthquake observation, including new stations.